



森のようちえんの 気になる評判



NPO法人
青空保育たけの子

森のようちえん全国交流フォーラム in 青森が 11 月 1 日から 3 日まで青森大学にて開催され、わたし達青空保育たけの子も実行委員として運営に携わってきました。

県名に「森」とついているのは青森だけなのに、森のようちえんがひとつも無い。なんとか、認知してもらい広めていきたいという実行委員長の熱い思いから、東北 6 県の森のようちえん関係者がチームを組んで取り組んだフォーラムです。参加者がなかなか集まらず、かなり気をもんだのですが、予定人数の 200 名を超える参加があり、大盛況のうちに開催することができ、その感動の余韻がまだ残っています。

今回は、森のようちえんに実際に通わせた方々の調査をしたという方のブログから引用し、気になる評判を考察してみたいと思います。

△森のようちえんの最大の特徴は、文字通り「森」が教室になること

園舎で過ごす時間を最小限に抑え、天候に関係なく外で活動することが基本となります。

「え? 雨の日も外で過ごすの?」と思われるかもしれませんのが、その通りなんです!

北欧発祥のこの教育スタイルでは、「悪い天気はない、悪い装備があるだけ」という考え方が基本となっています。

たけの子でも、最初はハエが腕にとまつただけで泣いています。

子どもたちは、季節の移り変わりを肌で感じながら、虫や小動物との出会いを通して自然への理解を深めています。

ていた子が、数か月ののちには、カナヘビのオスとメスを捕まえ、そのエサに生きた虫を捕って与え、卵まで孵して育てました。

また、固定的なカリキュラムがないことも大きな特徴です。

子どもたちは「今日は何して遊ぼうかな?」と、自分で考えて行動することが求められます。

子どもたちの「やりたい!」という気持ちを大切にした活動が展開されています。

△森のようちえん卒園後の意外な真実

「小学校に入学してから適応できるのかしら?」

これは多くの保護者が抱える不安です。

しかし、実際の卒園児の様子を見てみると、むしろ高い適応力を見せる子どもが多いというのが興味深いところ。

ある小学校の先生は、「森のようちえん出身の子は、課題解決能力が高く、友達との関係も上手に築けています」と評価しています。

自然の中での遊びを通じて培われた「状況判断力」や「コミュニケーション力」が、意外にも学校生活で大きな強みになっているようです。

△森のようちえんならではの意外なメリット

これまであまり知られていなかつた森のようちえんのメリットも見えてきたと言います。

それは「レジリエンス(困難に立ち向かう力)」の高さです。

例えば、

・雨の中での活動で「頑張ればできる!」という経験を重ねている

・自分たちで考えた遊びがうまくいかなくても、別の方法を試してみる粘り強さがある

・自然の中での予期せぬ出来事に対応する中で、柔軟

な思考力が育まれている

これらの経験が、小学校以降の学習や生活での「めげない心」につながっています。

ただし、これは保護者のフォローあってこそその結果かもしません。

入学前から「小学校では違うルールがあること」をしつかり説明している家庭の子どもほど、スマーズに適応できているようですね。

興味深いことに、学習面でも心配無用という声が多いです。

むしろ「なぜ」「どうして」という好奇心が旺盛で、新しい学びに対しても積極的な子が多いとか。

・理科: 自然観察の経験が生き、植物の成長や昆虫の特徴をよく理解している

・算数: 木の実を数えたり、距離を測つたりした経験が、数的感覚の育成に役立つている

・国語: 自然の中での体験が、作文や物語の創作に豊かな想像力を与えている

ただし、これはあくまでも傾向であって、個人差があることは忘れないでほしいです。

森のようちえんを選ぶかどうかは、結局のところ、お子さんの性格や家庭環境との相性が重要になってしまいます。

辺見妙子

